

本研究会は、11月におこなわれる全国造形教育研究大会・東京大会の研究テーマである「造形美術教育のダイナミズム 成長と連携」のプレ研究と位置づけ、11月の本大会に研究成果をつなげることといたしました。

3月の春休みに決定し、8月1日の本日まで4ヶ月をという慌ただしい日程を考え、この夏の研修会では「連携」ということにテーマを絞り込みました。

そして本研修会のテーマを「連携・つながることで、生徒に身につけさせたい美術の資質能力を向上させ美術教育の価値をソトに伝える」と決定いたしました。

研究を進めるにあたり、三つの視点を確認いたしました。

1つ目は、我々が外とつながるのは、授業の質を高めるため、子供の学びのためであるということ。

2つ目は、子供たちが自分達自身で新しい価値を作りだし、大人になってから社会に繋げていくという「子供達が外の社会とつながっていく」視点。

3つ目は、図工美術教育が人間の営みや社会に寄与していることを明確にし、その価値を外に伝える。私たちが発信し繋がるという視点。

その3点について話し合いを進めてまいりました。

特に子供たちが自分自身の新しい価値を作り出し、大人になってから社会に繋げていくという視点は、発想や構想といった子供の思考の活動に力点を置いた図工美術ならではのねらいであり、「単にものだけを作るだけじゃないんだよ、実は幅広い能力を身につけているんだよ」という証になると考えました。

私たちが、「美術は必要だ」と声高に叫ぶだけではなかなか現状は変わらないと思います。授業を大切にすると同時に、社会に対してどのように働きかけるかが必要だと思 います。

今回の都中美の発表では、子供達がなにげない生活から自ら課題を見つけて表現していくことで、子供達自身が「美術が持つ力」を実感できるような題材を目指しました。

またタブレット端末を活用した鑑賞の実践発表は、鑑賞教育の新しいあり方を示す先取りの実践と受け止めています。

話しは変わりますが昨年、私の勤務校はやんちゃな生徒がたくさんおりました。学校を建て直すささやかな一助となれば良いと考え生活指導部と連携して「生活指導カルタ」の制作を行いました。

「その言葉、胸に刺さったら取り消せない」「ポケット内、それ本当に必要なの？」など、生活指導部で募集した標語を文字だけの日めくりカレンダーにして貼ってあったのですが、1～2週間するとロッカーの上に積み重なってほこりだらけになっていました。

そこで、美術の授業内で、「学校を良くするために、みんなの力を貸して欲しい。みんなが描いたカルタの絵を学校に貼ろう。」と投げかけました。内容が「どうしたら記憶のフックに引っかかり、胸に残るか、そしてその内容が抵抗無く見ている人に受け入れられるにはどうしたらよいか」を考えさせ、言葉と響き合う絵を組み合わせ

て発想し、少しユーモラスなカルタとして制作し、140名、全員分をパウチして貼り出しました。

自分の作品が校内に貼られ、先生方や保護者から多くの声をかけられ反応されることで自分の作品を作るという美術との関わりから、美術によって発信出来るんだ、影響を与えられるんだというように、生徒の美術に対する見方が変わったように感じます。伝えるために創意工夫されたビジュアル・視覚の持つ力をあらためて感じていました。

生徒も満足感を感じていただけでなく、生活指導部からも感謝され、今年度も取り組む予定になりそうです。

この経験は生活指導部という校内の組織とつながることの重要性を実感し、ささやかですが、つながることの大切さについてあらためて考えさせられました。

そして、今回、中学校美術Q&Aと繋がることは、都中美にとって大きな成果でした。私たち図工美術の教員が繋がるという、とても大切なことを具体化することが出来ました。私達は繋がって行く必要があると思います。お互いの利益を超え、境界を越えて、美術の素晴らしさを広めたいという想いの元に生まれる双方向の繋がりとなったように感じます。新しい広がりなる予感がします。

結果的に、当初の申し込み者数を遙かに超え、1日目は160人超、2日目は約120人(懇親会は58名+α)という沢山の方々にご参加いただきました。全国の方々と繋がる事ができた感動を、日々の仕事に忙殺されることなく行動を起こしていきたいと思います。

開催にあたり様々な方面で調整が必要でしたが、中学校美術Q&Aの皆様のご配慮で、開催することができました。心より感謝申し上げます。

お互いの立場を考えながら、目指すゴールは、子供のよりよい学びとすることを、本研究会を通して皆様に実感して頂けると嬉しいです。

また、個人的にも存じ上げていますが、今回の発表者は素晴らしい方ばかりです。これだけの方々が集まり発表を聞く事はあまり無い貴重な機会です。発表者の先生方は、激務という言葉がけっして大げさで無い多忙のなかで、指導案を持ち寄り、議論を重ね、関係諸機関に何度も足を運び、実質3ヶ月という短い期間の中で、少しでも良い授業を作り上げようと奮闘しておりました。そのひたむきで熱い姿に心を揺さぶられ、この夏季研修会を是非成功させたいと強く思うようになりました。

今回の研究で議論したことを次の大会に向けてさらに深めていきたいと思います。ご参加の皆様のご指導、ご助言をお願い致します。

最後になりましたが本研究会の実施にあたって、準備や運営を支えて下さったたくさんの方、ありがとうございます。そして、会場をお借り致しました両国中学校の菊田校長先生にはたくさんのご援助をいただきました。重ねて深く感謝申し上げます。